

教え子・若者を「戦場」に送るな！
 安保法案に反対する教育関係者緊急集



安保法案を求めて広範な教育関係者が
 共同で開いた緊急集会(小田、長野市)

教え子 戦場に送るな
 教育関係者ら集会

長野
 戦争と専制政治への不安の影に「教え子・若者を再び戦場に送るな」と20日、長野市で「安保法案に反対する教育関係者緊急集会」が開かれました。県教育長・高校長経験者から、教職員組合運動関係者まで、立場を超えて約350人が参加する歴史的な集まりに発展し、デモ行進で法案ストップを訴えました。

教育関係者へのアピル署名・集会呼びかけ人の一人、県教育長を務めた山口利幸氏は、戦時中の学徒出陣を神宮のスタンドで見送った戦争体験者から送った戦時中、二重とあつたはなさない。解戦改憲といとも簡単に交えるのは非常に姑息(こそく)、危険だと述べました。

松本隆氏(県教委委員)は、長野県の教育者が戦時中、国策となつた「満蒙開拓」遂行に積極的協力し、15、16歳の子弟を満蒙開拓青少年隊員軍に入行し、4、5人に一人が二度と信州の地を踏めなかつた」と語り、法案反対の決意を述べました。

は、戦時中の学徒出陣を神宮のスタンドで見送った戦争体験者から送った戦時中、二重とあつたはなさない。解戦改憲といとも簡単に交えるのは非常に姑息(こそく)、危険だと述べました。

松本隆氏(県教委委員)は、長野県の教育者が戦時中、国策となつた「満蒙開拓」遂行に積極的協力し、15、16歳の子弟を満蒙開拓青少年隊員軍に入行し、4、5人に一人が二度と信州の地を踏めなかつた」と語り、法案反対の決意を述べました。

戦争法案反対各地で行動

「違憲」が国民の理解
 鳥取県弁護士会歴代会長 廃案求める

鳥取県弁護士会の歴代会長16人が21日、鳥取市で記者会見し、憲法違反の安保法案の衆議院強行採決に抗議し、廃案を求めるための声明を発表しました。

足立殊尚会長は「安保法案は憲法の法律であるという点で、国民の理解は進んでいる。強行採決は、立憲主義に反する権力(金権政治)に反対する国民大集合の成果を踏襲し、8月2日の安保法案に賛同し、抗議しました。」と述べました。

安田寿朗弁護士は、「後方支援」は安全ではなく、格好の攻撃対象▼安保法案は、あえて日本を米国の戦争に巻き込み、テロを誘発するもの▼米国に加盟することなど、0案に基づいて平和構築をすべきだと述べました。

戦争法案反対を表明する歴代会長=21日、鳥取市

ネット拡散 1000人超行進 東京・立川

へ介入の積み重ねの上にある。小異を捨てて、大同につくとき。内外の多くの犠牲の上にある平和憲法に反する法案を押し通すのは、戦争で流された多くの血を無意味にするものだ。めげない、あきらめない」と力強く語りました。

東京都立川市で19日、でなく話し合いで平和を「ゆるすな」戦争する国」と訴えました。日本共産党7・19たちかわ大行進が取り組まれました。賛同する民主団体、若組、個人などが実行委員会をつくり、ネットでも拡散され多くの若者を含む1000人を超え人が参加しました。

緑町公園を出発し、市街地を行進したパレードは、ドラムのリズムに合わせて「戦争反対！平和が一番！」と歌いながら、「憲法を守れ！子どもを守れ」とアピル。留待ちの人やバスの乗客が、拍手したり、手を挙げたりして応援していました。



「戦争反対」と訴えパレードする、たちかわ大行進参加者(19日、東京都立川市)(実行委員会提供)

7/22
 志強